

2016年(平成28年)度 学校教育総合プランに沿った重点とする取り組みと評価

【返子市立沼間小学校】

学校教育総合プランの柱 ① 授業づくり

2016年(平成28年)度

2017年(平成29年)度

2018年(平成30年)度

<p>学校及び学年等の実態</p>	<p>昨年度委託研究1に取り組んできた経緯があり、授業づくりや学び方づくりといった観点で、本校としてこれまで創造してきたアクティブラーニングにつき、授業者である各教員が各教科の中で実践を果たしている。 2020年の指導要領改訂に向けて、カリキュラムマネージメントの必要性について研修をしていく必要がある。道徳の教科化や、外国語活動から英語科へと移行する準備をしている。 2016(平成28)年度から新設された通級指導教室との連携で、学習の補償がされるようになってきた児童が増えている。</p>	<p>子どもたち同士の学び合いを大切にした授業づくりを、本校における授業形態の基本として考えている。各授業の最初に本時ねらいを板書して毎時間の見通しがつづくように、学校全体で導入時の欠かせない大切な取り組みになっている。 主体的・対話的な深い学び合いを、各教科並びに毎時の授業において、どの場面でも具体的な創意工夫を凝らすべからず、教科研究をブロックごとに行っている。今年度、多くの教員が入れ替わったことで、授業づくりに対する考え方の見直しを徹底を図っていく。校内研究に体育科を選び、子どもたちが学び合いを主体的に進められる授業づくりを目指していく。</p>	
<p>目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学び合いを大切に授業づくりの推進 ・侵入者対策及び安全教育の実施 ・防災・減災教育の推進 ・読書活動の日常化を図る ・食育と体力づくり・健康教育の充実を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・学び合いを大切に授業づくりの推進(2～3年後までを見通して、本校としての学び方及びそれに伴う授業づくりを模索・構築) ・防災・減災教育、人権教育、体力づくり、健康教育の推進(自分の命は自分で守り、併せて他者との共生を意図) ・通級指導教室との密なる連携を図り、支援を要する児童に対して具体的な手立てを尽くす 	
<p>取り組み計画</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 授業研究の充実を図るために、年間で一人2回以上の公開授業を行う。 ② 授業づくりや授業評価を明確にして、授業研究に臨む。 ③ ユニバーサルデザイン化を取り入れた授業研究を推進していく。 ④ 学習規律にこだわった学級経営を推進していく。 ⑤ いじめや不登校などの問題行動への対応について、校内の支援体制を充実させていく。 ⑥ 地域ぐるみで、子どもの安全・安心を確保を図り、学区内の教育環境整備に努めていく。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 若年層教員への着実な支援を、担当者を中心にして、組織的に取り組み実績を上げていく。 ② 授業研究の充実を図るために、年間で一人2回以上の公開授業を行う。 ③ ユニバーサルデザイン化を意識した授業、並びに学級経営を推進していく。 ④ 2020年の指導要領改訂に伴う内容の研修及び教育課程の編成について、話し合いを開始する。 ⑤ いじめや不登校など問題行動への対応について、教育相談コーディネーターの二人体制が校内の支援体制を充実・深化させていく。 ⑥ 地域ぐるみで、子どもの安全・安心の確保を図り、学区内の教育環境整備に努めていく。 	
<p>実践内容</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 自己表現及び言語活動を中心とした授業づくりを推進していく。 ② 国際理解教育指導助手の、実践的な活用について研修していく。 ③ 授業を中心とした様々な学習活動を、お互いに親合うことを大切にいく。 ④ 校長・教頭の授業参観に対する指導・助言を活かしていきけるようにしていく。 ⑤ 災害用伝言ダイヤル171の訓練(年間3回実施)等の、災害対策の連絡ツールとして実用化していく。 ⑥ ユニバーサルデザイン化を意識した、授業形態及び教室の利用(掲示物、机の配置等)について、工夫をするようにしていく。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 若年層教員の指導力向上及び支援のために、校長・教頭から教科指導をはじめとした様々な教育活動において、適宜、指導・助言となるものをメールで行っていく。学級経営や保護者対応については、教育相談コーディネーターが積極的に関わっていく。 ② ユニバーサルデザイン化の導入事項が、授業形態、教室内の掲示物等、全学年において果たせるようにしていく。学習効果を高める手法として、適宜、校長通信を利用して紹介していく。 ③ 災害用伝言ダイヤル171の訓練において、一度に二つ以上の学校からの発信情報を、保護者が受け取ることができるようにする。 	
<p>評価</p>	<p style="text-align: center;">A</p>	<p style="text-align: center;">A</p>	
<p>評価の根拠</p>	<p>アクティブラーニングを意識した授業づくり、学び方づくりについて、各教科並びに特別活動などにおいて、次世代を見通した取り組みが実践的に行われている。 授業の本時ねらいを板書して、子どもたちと授業者が学習活動の目的を、認識し合うことができるようになった。(授業のまとめとして、本時でわかったことや、まとめといったことについても扱うようになり、次時へのつながりを大切にできた) 各教科、学校行事、特別活動を通じて、自分の意見や考えを述べるときには自分の言葉で言うように、メモなどを見ないで発表することが、学校全体の文化として定着している。 授業公開を呼びかけると、お互いに時間の都合をつけ合って参観する慣例ができていく。校長がメールで送る授業感想に対して、今後活かしていくこととする決意を伝えていく。 災害用伝言ダイヤル171の連絡ツールをはじめとして、本校独自の操作マニュアル制作やホームページの活用等、災害や有事の際の対策が整備されてきた。</p>	<p>主体的・対話的な深い学び合いのできる授業づくりを、各教科指導の中で意識して、それが幅広く実践できるようになってきている。元々、子どもたちの学び合いを大切にできた授業づくりが、若年層の中にも浸透してきている。(グループ学習における毎時間の役割分担や、子どもたち同士の活発な意見交換、自己表現活動の実践化が増えている) 委託研究の取り組みとして、どちらかというと指導上苦手としていた体育科の器械運動を選択し、一定の成果を上げられたことは大きい。 授業力の向上を果たすこと、充実した質の高い授業が提供できることで、学級・学年経営の充実や安定が図れるものと、教職員一同が危機感をもって取り組んでいる。 教科授業のみならず様々な教育活動において、型や流れを子どもたちが自ら果たすべきことを、自覚できるようになってきている。子どもたちが中心となって、学級・学年・学校行事を推進していきけるようになった。 上級生を手利による文化が定着してきて、児童会活動においても縦つがりの範囲ができていく。 災害や有事の際の保護者との連絡ツールは、整備から深化を図ることができるようになってきている。</p>	
<p>課題</p>	<p>2020年の指導要領の改定に向けて、系統的・段階的・計画的な準備を進めていく必要がある。特に、英語科の導入に対する準備をしていく。 さしあたり英語の教科化については、週時数をこれ以上増やさないことを前提にした方法を、中長期的に柔軟性をもった考え方を備えていき、具体的な案を模索していく。 様々な教育活動の中に、ユニバーサルデザイン化の導入ができるように工夫していく。 通級指導教室「やまびこ」との連携について、次のステップとなる工夫を模索していく。 学校防災計画に基づいた安全体制の整備について、実践的な動きが常にシミュレーションできるようにしていく。 ICT機器を活用した教科指導及び教育活動について、タブレット端末の導入に備えていく。(活用法及び管理)</p>	<p>2020年の指導要領の改訂に向けて、特に今年度は教育課程の編成について、話し合いを進め共通認識を図ってきた。それを受けて次年度における移行措置に対し、道徳科の評価や3・4年生の英語科の導入に際し、年度当初から年間指導計画の作成を含めた授業実践については、急務として迫られる可能性のあることを自覚している。道徳科の評価については資料集め、英語科についてはクラスルームイノベーションづくりを手がけてきたので、それぞれの実践化を推進していく。 教育相談CDの二人体制が、本校における支援教育の中核の役割を果たしていることで、今後は盤石な組織運営が果たせるようにしていく。併せて通級指導教室「やまびこ」との連携を、より有意義で充実した存在にしていきたい。併せて、相互関係の理解を深めていく。 防災計画に基づいた具体的・実践的な動きについて、十分な研修を進めていく。(今年度、異動者が多かったため、実践的な有事の備えまでの役割分担等周知徹底が図りきれなかった)</p>	

2016年(平成28年)度 学校教育総合プランに沿った取り組みと評価

【返子市立沼間小学校】

学校教育総合プランの柱 ② 集団づくり

2016年(平成28年)度

2017年(平成29年)度

2018年(平成30年)度

<p>学校及び学年等の実態</p>	<p>日頃からの見守りはもちろん、年間を通じて定期的に行っている「生活アンケート」の結果を見ていると、なかまづくりの意義や大切さにつき、その価値を目指す児童像の一つとして日頃から重点目標に、教員も児童も教育活動を行うことができている。</p>	<p>子どもたちの見守りや寄り添い方については、良好な集団づくりが基盤にあってこそ安定した授業力が発揮でき、併せて学習効果の能率や向上につながっていくものと、教職員全体の中で共通した認識を持つことができている。年間で行っている「生活アンケート」を、一つの指導及びアセスメント資料として、お互いを尊重し合う集団づくりを形成しようとしている。 学校生活の学びの基本としては、上級生に見習ってという縮図が整っている。 大人(教職員)は子どもたちに、上級生は下級生に、それぞれ憧れの念を持たれるような、魅力ある人間味が備わるようにできている。</p>	
<p>目標</p>	<p>・基本的な生活習慣を計画的に発達段階に応じて身につけさせ、本校の目指す児童像である共学・共育・共生を意識した教育を推進していく。 ・お互いのつながりを自覚し、他者への関心、そして思いやりや信頼感を高める。 ・子どもたちの生活背景や交友関係の把握を大切に、いじめや問題行動の未然防止・早期発見・早期対応・早期解決・そして根絶を図っていく。(生活アンケートの工夫と充実した活用)</p>	<p>・基本的な生活習慣を計画的に、発達段階に応じて身につけさせ、本校の目指す児童像である共学・共育・共生を、各教育活動を通じて十分に意識した教育を推進していく。 ・子どもたちの生活背景や交友関係の把握を大切に、いじめや問題行動の未然防止・早期発見・早期対応・早期解決・そして根絶を図っていく。(『生活アンケート』の工夫と充実した活用) ・返子市教委が年間三回行う「意識調査」を、有効活用していけるように模索していく。(数値の推移を、その後の指導に活かしていく)</p>	
<p>取り組み計画</p>	<p>①定期的な実態把握に努めるため、『生活アンケート』を実施して、子どもたちの細部にわたる人間関係や生活実態について把握し、根拠強く児童一人ひとりの特性を学校全体の中で見守り、個に応じたきめ細やかな指導につなげていく。 ②教育相談コーディネーターの二人体制が、心の教室相談員、返子市教育相談巡回チームや外部機関とよく連携し、児童並びに保護者のニーズに応えられるようにしていく。 ③問題行動等に対する情報共有を怠ることなく、チームで対処していく意識の向上と取り組みの工夫を図っていく。</p>	<p>①定期的な実態把握に努めるため、『生活アンケート』を実施して、子どもたちの細部にわたる人間関係や生活実態について把握し、根拠よく児童一人ひとりの特性を共有していく。 ②共有した情報をもとにして、教職員一人ひとりが個に応じたきめ細やかな指導につなげていく。 ③教育相談コーディネーターの二人体制が、より幅広く支援教育における中核として活動する、組織運営を確立させていく。 ④児童に係る諸課題や問題について、その都度チームで対処していく基本体制づくりについて、迅速さや的確さ・適切さを意識した運営を果たしていく。</p>	
<p>実践内容</p>	<p>①学校生活全般を通じて、一人ひとりの児童のアセスメントをいねいに行っていく。 ②生活アンケートの凡例内容の工夫と結果の活用について、細部にわたって効果の高い指導力が果たせるようにしていく。 ③総合的な支援体制について、ケース会議や他機関との連携について、常に見通しを持った組織運営が図れるようにしていく。 ④教育相談コーディネーター二人体制の運営が二年目を迎え、組織運営の基盤を再構築していく。</p>	<p>①児童理解を深めるために、児童個々に対して複数のアセスメントを持ち寄り、チームで対応していく。 ②生活アンケートの集約結果に対して、少数であっても児童の居場所づくりについて、細心の配慮と指導力を発揮していく。(いじめに関しては敏感に認知し、迅速に適切にチームで対応していく) ③指導や支援について見通しが持てるように、ケース会議を積極的に設定していく。 ④教育相談コーディネーター二人体制の役割が、分担・確認・相談・渉外・連携・支援等の動きによって、学校組織全体の中で教職員全体が確め合えるようにする。 ⑤よりよい集団作りが、学校生活の基盤をゆるぎないものになることを、常日頃から共通認識していく。</p>	
<p>評価</p>	<p style="text-align: center;">A</p>	<p style="text-align: center;">A</p>	
<p>評価の根拠</p>	<p>本校における支援教育の基盤を、児童一人ひとりのアセスメントを大事にすることで、個に応じたきめこまやかな指導にあっている。 良好な人間関係があってこそ、充実した学校生活が送れることであり、授業の効率化や学習結果の向上が望めることなど、確かな共通認識をもって全教職員が、各教育活動に専念している。 教育相談コーディネーターの二人体制が、運営の中核として機能するように、児童指導及び児童理解に対する教育活動が円滑に推進されていた。全教職員の協力・協働態勢が、とても大きく影響していた。 児童会活動において、たてわり活動が様々な場面で他者への思いやりや、感心、信頼感といった気持ちを育んでいる。上級生が下級生の手本となる縮図が定着して、特に「憧れの6年生」というイメージを下級生たちが、無意識の中の意識として持つことができている。 いじめや問題行動の対処には、未然防止や早期発見・早期対応・早期解決を果すために、様々な学校生活においてアンテナを張り、情報の共有化を欠かすことがなかった。</p>	<p>個に応じたきめ細やかな指導、支援教育の推進について、児童一人ひとりのアセスメントの共有を、メール(校長・教頭・学級担任・教育相談コーディネーターの連絡ツール)や連絡ノート(特に、教育相談コーディネーターと学習支援員の連絡ツール)で、円滑な取り組みが果たせた。全教職員の連携及び協働は、児童理解の大きな支えとなっていた。 よりよい集団作りが、充実した学校生活及び人間関係を保持できることを、全教職員において共通認識が図れた上で、各教育活動に専念し、それぞれの教育効果を高めている。 縦つながりの児童の活動の中で、手本であった憧れの念を抱いたり、上級生の存在というものが大切な存在となっており、学校文化に根付いている。「憧れの6年生」としての存在は、何物にも代えがたい教材である。こうした活動を通じて、思いやりや認め合い、励まし合い、支え合いといった、集団形成には不可欠な心情を育むことができている。 いじめや問題行動の認知、そして情報共有並びにチームでの組織対応は、迅速で適切な組織運営を果すことができた。今後とも幅広くアンテナを張りめぐらせて児童理解を深めていくことで、いじめの未然防止はもとより、特に児童の人間関係に係る諸課題の早期解決に尽力していく。</p>	
<p>課題</p>	<p>通級指導教室設置校として、質の高い運営が果たせるようにしていく。本校における支援教育の位置づけが、より明確化したものにしていく。(特に、保護者への理解) 児童指導・児童理解を図るためのスキルアップを、効率よく身につけていけるようにする。(計画的な人事異動が必要とされるため) いじめや問題行動に対する危機感を絶やすことなく、これからも緊張感をもって臨んでいく。 児童の人権を大切に保護者との協働として、より有効的な児童理解及び指導を追究していく。</p>	<p>通級指導教室設置校として、その利点を活かす方途をとってきたが、課業内の取り出し指導は人数的な枠がいっぱいになってきていることで、今後の運営について保護者の確かな理解も含めて、支援シートをもとにした指導の計画を見直す必要がある時期を迎えている。 児童指導や保護者対応について、特に若年層のスキルアップを図っていけるようにする。(簡単に単独で判断することなく、チームで対応していくことを徹底していく) 保護者との協働について、ご理解をいただける言葉を様々な場面を通じて試みていく。 いじめや問題行動に対して、常に危機感をもって臨んでいく。</p>	

2016年(平成28年)度 学校教育総合プランに沿った取り組みと評価

【 返子市立沼間小学校 】

学校教育総合プランの柱 ③ 学校組織づくり

2016年(平成28年)度

2017年(平成29年)度

2018年(平成30年)度

<p>学校及び学年等の実態</p>	<p>学校教育目標の具現化を図るために、各学年・学級とも系統的で継続的な方針のもとに、一体感のある教育活動が営まれている。 業務の標準化に対して前向きに取り組み、本校の学校運営における中長期的な見地から、次年度からの新校務分掌開始に向け、職場全体の総意を吸い上げながら本校の独自の体制を作ってきた。 通級指導教室の新設・開設に伴い、連携を密にした教育活動に努めている。 支援教育の充実をもとより学校運営全体に、教育相談コーディネーターの二人体制が大きく欠かさない存在となって機能している。</p>	<p>学校教育目標の具現化を図るために、各学年・学級とも系統的で継続的な計画や方針のもとに、一体感のある教育活動が営まれている。(今年度より学年・学級経営案を作成し、指導方針等の明確化を図り、人材育成にも十分に活かしていく) 業務の標準化にともない新しい校務分掌が施行され、本校の独自性も活かしながら推進している。 支援教育の充実をもとより学校運営全体において、教育相談コーディネーターの二人体制が大きく欠かさない存在となって機能している。(児童のアセスメントの正確性、適切な判断力が大きな結果として得ることができている) 通級指導教室利用児童の活動場を、学級担任が共有できるように参観という工夫をしている。</p>	
<p>目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> 児童一人ひとりの居場所を大切に、教職員全体で見守っていく。 児童及び保護者との教育相談体制作りを確立していく。 緊急災害時の安全・安心の確保について、各訓練の充実を果たしていく。(児童一人ひとりに、危機回避能力を身につけさせていく) 子どもたち並びに教員間においても、学び合う気持ちや体制を確立していく。 校務支援システム及びホームページの更新について、有効活用していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童一人ひとりが自分の居場所を確かに感じられるよう、教職員全体で見守っていく。 児童及び保護者との教育相談について、学年会を中心とした研修会をもとに、充実した結果が得られるようにしていく。 校務支援システムの幅広い活用が、更に有効・実用化されていくようにする。(児童の記録メモ等) ホームページの有効活用によって、本校の情報発信ツールを増やし、充実を果たしていく。 共に学び共に築いて行こうとする心構えを、児童も教職員も絶えずこたない関係を構築していく。 	
<p>取り組み計画</p>	<ol style="list-style-type: none"> 校務支援システム及びホームページの操作について、オリジナルマニュアルを作成する。 教育相談のポイントや手順などにつき、校長通信を通してアドバイスしていく。 様々な教育活動に対して共に学び共に築いていく体制づくりを、学校全体の中で意識していく。 子どもたち及び保護者の方たちが安心できる、有事に備えた避難・防災訓練の充実を果たしていく。 個人面談、懇談会、家庭訪問等について、相談の内容に対する適切な対応ができるように、学年会の中で研修及び共通理解を深めていく。 学校行事においてアンケートをとり、その結果について具体的にタイムリーなアクションを起こしていく。 	<ol style="list-style-type: none"> ホームページの編集並びに操作は、作成したオリジナルマニュアルをもとに、各担当者が携わるようにしていく。 校務支援システムでは「あゆみ」の編集において、操作可能な者が限られているため、今年度はオリジナル操作マニュアルを作成していく。(操作のできる人材を増やしていくようにする) 人材育成のために、一つひとつの教育活動に対する評価や事前のアドバイス・ポイント等につき、校長通信を通じてタイムリーに知らせていく。(特に、若年層職員を対象に考えていく) 有事の際の安全・安心の確保について、避難・下校・待機等について、組織が的確に運営し機能していけるようにしていく。 	
<p>実践内容</p>	<ol style="list-style-type: none"> CMS方式のホームページの作成及び運営について、作業手順のマニュアルを作成していく。 教育相談の充実を図るために、毎週発行している校長通信を通じて指導・助言を行っていく。 学校関係者評価委員会の結果を、本校の教育活動に反映していく。 保護者とのコミュニケーションづくりや懇談の場を大切にしたいために、PTAからの協力が得られるようにしていく。 1小・1中9年間の学びの場の連続性について情報交流の末に、カリキュラムづくりを進め始めている。 	<ol style="list-style-type: none"> CMS方式ホームページの運営について、各分掌をもとにして担当者が年間を通じて、定期的な更新を行えるようにする。 教職員向けに毎週発行する校長通信で、身近に感じることが出来る教材並びに児童・理解指導に活かせる話題を提供していく。(OJTの標準化を図るため、及び様々な教育活動における実践力を身につけていくため) 保護者向けの校長だより(隔週で発行して三年目)において、大人たちの協働についてタイムリーに話題提供や協力依頼をしていく。 1小1中の連携を更に深めていくために、中学校の教育活動の実態について見学・参観するようにしていく。 	
<p>評価</p>	<p style="text-align: center;">A</p>	<p style="text-align: center;">A</p>	
<p>評価の根拠</p>	<p>円滑な組織運営を果たそうと、各学年並びに校務分掌のリーダーが、チームで取り組むというスタイルを大切に、効果的なリーダーシップを発揮していた。 キャリアプランを意識した人材育成について、特に仕事内容の伝承ということで、自分の仕事分以外にも積極的に参画しようとしていた。(教職員間の学び合い) 1小・1中の特色作りについては、授業公開と情報交換を大切にすることが、研修の一つとして定着してきた。 新しく設立されたホームページについて、各担当者が資料投稿ができる、組織の基盤を作ることができた。 児童の安全と安心を確保するため、学年ごとで定期的に地域ハローを行って来た。 業務の標準化推進について、本校の中長期的な学校運営を見通したうえで計画・立案してきた。 校務支援システムの導入に対して、その有効活用を推進してきた。 学年会の位置づけが学年内のことのみならず、学校運営全体が円滑に進むよう、また職員会議を短時間でおさめられるように、PDAサイクルを大切に話し合いが進められている。 各情報発信において、保護者アンケートで高評価を得ていた。</p>	<p>学校教育目標の具現化を図るため、各学年・学級経営案を作成し、何事にもチームで対処していく機動力が身につけた。組織の縦横のつながりを見守った運営が、組織全般にわたって果たせるようになってきた。 業務の標準化による初年度の取り組みであったが、伝承・整理・仕分け等を、的確に対処することができた。次年度に向けた修正等も手がけることができた。 人材育成については、子どもたちの学び合いを大切に授業づくりを同じように、特に授業を見学することを大切にした末に、質の高い授業力を身につけようとするのは、本校の伝統文化の一つとして定着している。 発信力の充実として、特にホームページの運営は、定期的な更新及び役割分担が定着してきた。発信する様々なお便りにおいて、顔の見える開口の開いた学校であることに保護者に伝えられている。それに伴い、保護者の声が近く届くようになってきている。 1小1中の連携を深めることは、理解を深めていくことであるとして、体育科や英語科の授業者派遣依頼をして、専門的な指導力を研修することができた。給食指導においては、中学校給食の試食会を設けて全教職員が参加できた。 支援教育に対する認識及び本校としての取り組みが、教育相談コーディネーターや通級指導教室担当者、特別支援教室担当者がうまく連携の役目を務め、理想的な運営が果たせるようになってきた。</p>	
<p>課題</p>	<p>義務教育9年間を通じたカリキュラムマネージメントは、学校の特色として推進していく必要があることとして、今後の教育活動の充実や指導要領の改訂に、うまく対応していける方途の一つだと考える。 校務支援システムのプログラム編成・編集については、それが限られた担当者になってしまっているため、今後、研修の機会を設定していく必要があると考える。 個に応じたきめ細やかな指導について、保護者アンケートの結果数値が高くなかったため、今後とも本校における教育活動において重点の一つであること、ねらいについてご理解をいただけるようにしていく。 学校警察連携制度の活用について、研修をしていく必要があると考える。</p>	<p>2020年の指導要領改訂に伴い、カリキュラムマネージメントについて本校の特色が出せるように、具体的な縮図を提示していけるようにする。 校務分掌及び学年における組織運営が、円滑に行われるようになってきたことから、働き方改革を仕事の仕分けや精選することだけでなく、仕事や役割に対する意識の持ち方や軽重のかけ方について、チームで個人で果たしていけることを考えていく。 保護者との協働について十分な理解が得られるように、質の高いコミュニケーションを図っていく。 校務支援システムを操作・運用できる人材を増やしていく、有効活用を果たしていけるようにする。(各学年で一人ずつを目標にしておく)</p>	

学校教育総合プラン実施計画・評価一覧 2016(H28)～2 【逗子市立沼間小学校】

3つの柱	項目	行 動 プ ラ ン	成果	重点	成果	重点	成果	重点	項目別	項目別	項目別	柱別	柱別	柱別
	実施計画の重点等		2016	目標	2017	目標	2018	目標	成果2016	成果2017	成果2018	成果2016	成果2017	成果2018
I 授業力の向上	1 授業力の向上	① 「確かな学力」を育むための指導の充実	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	87%	87%		80%	82%	
		② 授業研究の充実	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>						
		③ 学習規律の確立	S	<input checked="" type="checkbox"/>	S	<input checked="" type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>						
	2 多様な教育活動の充実	① 読書活動の推進	A	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	78%	80%				
		② 防災・減災教育の推進	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>						
		③ 食育と体力づくり・健康教育の推進	B	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>						
		④ 情報教育の推進	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>						
		⑤ 福祉教育の推進	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>						
		⑥ 環境教育の推進	A	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>						
		⑦ キャリア教育の推進	A	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>						
II 集団づくり	1 認め合う集団づくりをめざして	① 基本的な生活習慣の育成	S	<input checked="" type="checkbox"/>	S	<input checked="" type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	95%	95%				
		② 豊かな心を育む教育の推進	S	<input checked="" type="checkbox"/>	S	<input checked="" type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>						
		③ 体験活動の推進	A	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>						
		④ 問題行動等への対応の推進	S	<input checked="" type="checkbox"/>	S	<input checked="" type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>						
III 学校組織づくり	1 支援教育の推進	① 支援教育の推進	S	<input checked="" type="checkbox"/>	S	<input checked="" type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	100%	100%				
		② 安全・安心に向けた取り組み	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>						
	2 安全・安心に向けた取り組み	① 学校安全の推進	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	85%	90%				
		② 研修事業の充実	A	<input checked="" type="checkbox"/>	S	<input checked="" type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>						
		③ 教育に関する業務の標準化に向けた取り組み	S	<input checked="" type="checkbox"/>	S	<input checked="" type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>						
		④ 信頼に基づいた指導の推進	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>						
	3 研修・研究の推進	① 教育の情報化の推進	A	<input checked="" type="checkbox"/>	A	<input checked="" type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	90%	90%				
		② 開かれた学校づくり	A	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>						
4 開かれた学校づくり	① 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	A	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	90%	90%					
	② 地域との連携の推進	S	<input checked="" type="checkbox"/>	S	<input checked="" type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>							

％は、Sを5、Aを4、Bを3、Cを2とし、項目数×5で割った数値

評価基準 S・・・想定以上の顕著な成果が見られ、行動プランが達成された(100%～90%程度) A・・・想定していた成果が見られ、行動プランが達成された(90%～70%程度) B・・・課題はあるが一定の成果が見られ、行動プランが概ね達成された(70%～30%程度) C・・・成果が見られず、または一定の成果が見られたが、行動プランは達成されなかった(30%～0%程度)